

リハビリテーション学科 理学療法学専攻 シラバスの変更一覧

学年	ページ	科目名
1年	15	大学生活論
2年	67	救急救命医学
3年	104	地域理学療法学演習
3年	105	保健医療福祉連携論
3年	106	専門支持科目特別演習

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング			
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	CO-0-HSO-01			
	●		●	●					
科目名	大学生生活論				単位認定者	大橋 孝子		授業内課題等 (授業ノート)	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	1年	開講時期	通年	単位数	1 単位	評価の方法	
					授業形態	講義	授業時間数		30 時間
				授業回数		15 回			
授業の概要	大学生生活を有意義に送るために必要となる姿勢、知識やスキルを身につける。具体的には、本学・各学科の教育方針の理解、大学での学び方（レポートの書き方、図書館の活用法等）、大学生生活の基礎知識（ネット社会の危険、消費者トラブル、交通ルールとマナー等）、健康に関わる知識（睡眠・食生活、ドラッグの危険性、大学生が会うところの問題等）を身につける。								
到達目標	1. 大学生・社会人としての基本的マナーを身につける。 2. 大学生生活を有意義に送るための知識やスキルを身につける。 3. 大学での学びを基盤に、学修の自己管理ができる。								
学修者への期待等	大学生生活を有意義に送るために設定した科目である。自己の目標を叶えるために、積極的に学ぶことを期待する。さらに多くの仲間をつくり、いろいろな考えに触れてほしい。								
回	授業計画				準備学修			担当	
1	学内ガイダンス（本学の教育方針）				科目専用の授業ノートを準備する。学生便覧を読む。（概ね30分程度）			大和田 宏美	
2	大学生生活での学び1（カリキュラム）				学生便覧とシラバスを読んでカリキュラムを確認してくる。（概ね30分程度）			齋藤 佑樹 大和田 宏美	
3	大学生生活での学び2（交流会1 学生自己紹介）				授業内容をノートにまとめ復習する。（概ね30分程度）			大橋 孝子	
4	大学生生活での学び3（交流会2 学生間交流）				授業内容をノートにまとめ復習する。（概ね30分程度）			大橋 孝子	
5	大学生生活での学び4（図書館の利用 文献検索の仕方）				学生便覧の図書館のところを読んでくる。（概ね30分程度）			阿部 奈津紀 大橋 孝子	
6	大学生生活での学び5（授業の受け方 ノートの取り方）				授業内容をノートにまとめる。（復習30分程度）			大橋 孝子	
7	大学生生活での学び6（自己学修 予習復習）				授業内容をノートにまとめる。（復習30分程度）			大橋 孝子	
8	大学生生活に関わる基礎知識1（学校生活のルール）				大学生とは何かを考えてくる。（概ね30分程度）			学生総合支援センター 増子 克哉 大橋 孝子 須藤 あゆみ	
9	大学生生活に関わる基礎知識2（新生活での注意点 生活トラブル 交通ルール）				授業内容をノートにまとめ復習する。（概ね30分程度）			学生総合支援センター 増子 克哉 大橋 孝子 須藤 あゆみ	
10	大学生生活に関わる基礎知識3（ネットの危険 情報モラル、ハラスメント）				情報モラルやハラスメントについて調べてまとめる。（概ね30分程度）			齋藤 佑樹 熊谷 竜太 大橋 孝子	
11	大学生生活に関わる基礎知識4（消費者トラブルについて）				消費者トラブルとは何か考えてくる。（概ね30分程度）			学生総合支援センター 増子 克哉 大橋 孝子 須藤 あゆみ	
12	健康に関する知識1（睡眠 食生活 ドラッグの危険性）				健康に関して調べ、まとめる。（概ね30分程度）			飯室 勉 学生総合支援センター 増子 克哉 大橋 孝子 須藤 あゆみ	
13	健康に関する知識2（大学生が会う心の問題）				授業内容をノートにまとめて復習する。（概ね30分程度）			神山 直子 大橋 孝子	
14	健康に関する知識3（感染症対策）				授業内容をノートにまとめて復習する。（概ね30分程度）			千葉 由里 大橋 孝子	
15	先輩から学ぶ大学生生活 グループワーク				授業内容をノートにまとめて復習する。（概ね30分程度）			大橋 孝子	
教科書	特になし								
参考文献	必要に応じて紹介します。資料を配付します。								
備考	1、2、5、8～13回はP T・O T合同授業です。大学生生活論専用のノートを持参し、授業ノートを作成してください。前期終了後、後期終了後計2回授業ノートを提出してもらい、採点し返却します。								

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	RP-1-D&R-11				
		●		●						
科目名	救急救命医学				単位認定者	伊藤 大亮		試験（筆記）	60 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	2年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題	40 %
	O T	必修	2年			授業時間数	30 時間			
				授業形態	講義	授業回数	15 回			
授業の概要	救急医療とは、一般市民による心肺蘇生法を含めた応急手当、119番通報と救急車の出動、救急隊員や救急救命士による現場での応急処置や救急搬送などの病院前救護から、救急室での救命治療、ICUでの重症患者管理等をいう。本講義では、理学療法士及び作業療法士の関わりも含め、緊急を要する病態や疾患・外傷の基礎的な知識と考え方、心肺蘇生・応急処置について学修する。									
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 救急救命医学について対象となりうる疾患、外傷について理解し説明できる。 救急救命医学における理学療法士、作業療法士の関わりを理解し説明できる。 災害医療について理解できるようになる。 									
学修者への期待等	医療従事者の一員である理学療法士、作業療法士として、救急救命の知識・技術を修得でき、実践できるように努めてください。									
回	授業計画				準備学修			担当		
1	応急手当の基礎知識① (応急手当と救命処置)				教科書の該当ページを予習すること。(概ね30分)			横山 亜矢		
2	応急手当の基礎知識② (倫理と法律、救急医療体制について)				教科書の該当ページを予習・復習すること。(概ね30分)			横山 亜矢		
3	傷病者の管理、止血法 ・反転授業（実習）				テキスト§3その他の応急処置Ⅰ・Ⅱにて予習すること(概ね30分)			横山 亜矢		
4	搬送法 ・反転授業（実習）				テキスト§3その他の応急処置Ⅳにて予習すること(概ね30分)			横山 亜矢		
5	各症候群についてとその対応				教科書の該当ページを予習・復習すること。(概ね30分)			横山 亜矢		
6	病気に対する応急手当				教科書の該当ページを予習・復習すること。(概ね30分)			横山 亜矢		
7	けがに対する応急手当				教科書の該当ページを予習・復習すること。(概ね30分)			横山 亜矢		
8	現場での応急手当の実際				教科書の該当ページを予習・復習すること。(概ね30分)			横山 亜矢		
9	災害医療の基礎知識				災害医療に関する知識について調べておくこと。			伊藤 大亮 江川 新一		
10	わが国の災害医療体制とリハビリ				災害医療に関する知識について調べておくこと。			伊藤 大亮 江川 新一		
11	避難所運営ゲーム(HUG)①グループワーク				避難所運営ゲーム(HUG)について調べておくこと。			江川 新一 坂上 尚穂 佐々木 広人 荒牧 隼浩 伊藤 大亮 齋藤 佑樹 高橋 慧		
12	避難所運営ゲーム(HUG)②グループワーク				グループワークの課題作成をしておくこと。					
13	手当・一次救命処置(BLS)の実際(1)グループワーク				BLSについて、予習しておくこと。			坂上 尚穂 佐々木 広人 荒牧 隼浩 伊藤 大亮 須藤 あゆみ 戸田 祐子		
14	手当・一次救命処置(BLS)の実際(2)グループワーク				BLSについて、予習・復習しておくこと。					
15	手当・一次救命処置(BLS)の実際(3)グループワーク				BLSについて、予習・復習しておくこと。					
教科書	「改訂6版 応急手当講習テキスト 救急車がくるまでに」 制作 一般財団法人 救急振興財団 東京法令出版									
参考文献	災害リハビリテーション標準テキスト/医歯薬出版株式会社									
備考	クラス編成 1回目～12回目：P T・O T 合同、13回目～15回目：3クラス編成PTはABクラスに分かれて実施、OTは単独実施									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	RP-2-CBP-02				
		●	●	●	●					
科目名	地域理学療法学演習				単位認定者	森永 雄		授業内課題 (小テスト)	30 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	3年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題 (発表・レポート)	50 %
						授業時間数	30 時間		受講態度	20 %
				授業形態	演習	授業回数	15 回			
授業の概要	地域理学療法学で学修した知識を基に、在宅高齢者や障害者に対する具体的な理学療法士の支援について学修する。本講義では、事例を通して、相談支援、訪問理学療法・通所サービス、住宅改修、車椅子や日常生活用具等の福祉用具などについての知識を深め、地域における理学療法士としての実践力を養う。また、介護予防、認知症予防や転倒予防などの運動および各評価についての理論を学び実践する。									
到達目標	【実践力】 シミュレーションを通して、地域理学療法の企画力と集団に対する実践力を高める。 【人間関係力】 他者の考えや対象者の立場を理解し、課題解決に向けた協調的な支援行動を図れる。 チームで生じている対立に気づき、自ら調整するよう働きかけることができる。 【生涯学習力】 考えを「引き出す」から「創り出す」学習の一步を踏み出すことができる。 自助・互助の果たす役割を自覚し、課題解決に向けて能動的な学習行動を図れる。 【地域理解力】 現場体験談を傾聴し、実社会の問題を推し量る能力を高めることができる。									
学修者への期待等	<ul style="list-style-type: none"> ・実技実演では動きやすい格好を心がけ、チーム活動では活発な討論ができるよう整えてください。 ・現場体験談を傾聴する際は、授業計画テーマの事前学修 (予習) に努めてください。 ・本選発表では、聴講者の興味関心が高まるような創意工夫を期待します。 									
回	授業計画				準備学修			担当		
1	地域高齢者の理解と評価・リスクマネジメント (反転授業)				LMSに掲載された資料を確認すること (概ね60分程度)			森永 雄		
2	地域理学療法学ガイドラインと住環境、まちづくり (反転授業)							森永 雄		
3	学生による介護予防教室の計画 (ディスカッション、グループワーク)							森永 雄		
4	学生による介護予防教室の実践 (ロールプレイ、グループワーク)							森永 雄		
5	現場体験談 1 国際支援 (青年海外協力隊) (ICTを活用した双方向型授業)				LMSに掲載された資料を確認すること (概ね30分程度)			市村 駿介 森永 雄		
6	現場体験談 2 地域・小児・理学療法士 (ICTを活用した双方向型授業)							小島 賢司 森永 雄		
7	現場体験談 3 訪問リハと理学療法士							荒牧 隼浩		
8	現場体験談 4 地域性に基づく理学療法と取り組み (ICTを活用した双方向型授業)							舘石 安由 森永 雄		
9	現場体験談 5 地域就労者の労働災害と健康増進							坂上 尚穂		
10	現場体験談 6 地域スポーツ活動の支援							佐々木 広人		
11	現場体験談 7 地域高齢者介護予防・健康増進・災害							大和田 宏美		
12	発表準備【リサーチ (AL)】 (ディスカッション、ディベート、グループワーク)				発表の準備を行うこと (予復習あわせて240分程度)			森永 雄		
13	発表準備【プレゼンテーション (AL)】 (ディスカッション、グループワーク)							森永 雄		
14	予選発表【校内発表 (AL)】 (学生によるプレゼンテーション)							森永 雄		
15	本選発表【外部聴衆あり】 (学生によるプレゼンテーション、クラス合同)							森永 雄		
教科書	LMSに掲載された資料確認									
参考文献										
備考	【備考】 A B 合同授業 (1-3、5-1213回、15回)、A B 別 2 クラス (4回、13-14回)、体験談における非常勤講師は遠隔講義 (Zoom利用) 予定 【特性】 ICT活用教育 (LMS、Google formなど)、AL (グループワーク、発表、ディスカッション、ディベートなど) 【評価】 「筆記試験」は2回目授業以降に随時試験として実施する。「授業内課題 (発表・レポート)」は、14-15回授業内容を対象とする。学生がLMSの科目コース内に指定した提出先Boxに提出する。後日、提出先Boxにあるフィードバック機能を用いて、ワンポイントアドバイスの機会を設ける。「受講態度」は、出席数と現場体験談受講後のリフレクション数と質を指標とする。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目 (実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

森永：理学療法士として十分な臨床経験および研究歴を持ち、本科目を教授するに十分な実務経験を有する。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング			
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	RP-2-CBP-03			
		●	●	●	●				
科目名	保健医療福祉連携論				単位認定者	大橋 孝子		授業内課題	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	3年	開講時期	後期	単位数	1 単位	評価の方法	
	O T	必修	3年		授業形態	演習	授業時間数		30 時間
							授業回数		15 回
授業の概要	包括的なりハビリテーションを行うためには、多くの医療専門職との連携が不可欠である。さらに、医療専門職だけでなく、保健・医療・福祉領域の関連職種との連携が重要である。本講義では、多くの関連専門職とその役割を知り、専門職間の連携の重要性について理解する。								
到達目標	1. 他の関連専門職の専門性を理解できるようになる。 2. 他の専門職と協働し、同じ目標を共有することで自らが目指している職種の専門性を再確認する。								
学修者への期待等	本講義はグループ学修中心の講義である。グループ学修においては積極的な意見交換を期待しています。また、療法士免許取得後も、実際の現場にて、率先して多職種連携を行えるようになることを期待しています。								
回	授業計画			準備学修			担当		
1	多職種連携とは			配付資料の復習をすること（概ね30分）			佐直 信彦		
2	他職種の専門性を知る[1]看護師			授業の内容をまとめる。（概ね30分）			他学科教員 原 和彦 大橋 孝子 小関 友記 須藤 あゆみ 戸田 祐子		
3	他職種の専門性を知る[2]言語聴覚士			授業の内容をまとめる。（概ね30分）					
4	他職種の専門性を知る[3]栄養士			授業の内容をまとめる。（概ね30分）					
5	他職種の専門性を知る[4]歯科衛生士			授業の内容をまとめる。（概ね30分）					
6	連携する際の工夫を考える [1] グループワーク			発表資料の作成準備を する。 （毎回概ね30分）					
7	連携する際の工夫を考える [2] 発表								
8	他職種の専門性を聴く [1] 障害者総合支援法における連携 ゲストスピーカー			授業内容をまとめる（概ね30分程度）			及川 かよ 原 和彦 大橋 孝子 小関 友記 須藤 あゆみ 戸田 祐子		
9	他職種の専門性を聴く [2] ケアマネージメント ゲストスピーカー			授業内容をまとめる（概ね30分程度）			福地 慎治 原 和彦 大橋 孝子 小関 友記 須藤 あゆみ 戸田 祐子		
10	他職種の専門性を聴く [3] 地域包括支援センター ゲストスピーカー			授業内容をまとめる（概ね30分程度）			東海林 大介 原 和彦 大橋 孝子 小関 友記 須藤 あゆみ 戸田 祐子		
11	事例検討 [1] 事例提示 グループワーク			発表資料の作成準備を する。（毎回概ね 30分）			原 和彦 大橋 孝子 小関 友記 須藤 あゆみ 戸田 祐子		
12	事例検討 [2] グループワーク								
13	事例検討 [3] 発表準備 グループワーク								
14	事例検討 [4] 発表1 グループ1～グループ5								
15	事例検討 [5] 発表2 グループ6～グループ10								
教科書	配付資料								
参考文献	「信念対立解明アプローチ入門—チーム医療・多職種連携の可能性をひらく」京極真、中央法規								
備考	P T・O T合同授業 課題のフィードバックは授業内に適宜行います。								

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング			
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	RP-3-SPS-01			
	●	●	●	●	●				
科目名	専門支持科目特別演習				単位認定者	大和田 宏美		試験(筆記)	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	3年	開講時期	通年	単位数	2 単位		
				授業形態	演習	授業時間数	60 時間		
						授業回数	30 回		
授業の概要	本講義では、卒業後の活動における理学療法士・作業療法士として必要な総合的能力を統合することを目的とする。とくに、基礎医学・臨床医学分野に関して3年間で学んだ基礎的な知識および技術を整理し、専門職として活躍できるよう学修する。								
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 解剖・生理・運動学に関して知識を整理し、理解を深める。 2. 臨床医学分野に関して3年間で学んだ知識と技術を整理し、臨床応用ができるようになる。 3. 臨床医学の知識と技術を修得し、理学療法・作業療法を実践的に展開できるようになる。 4. 専門基礎分野における国家試験の問題を解くことができる。 								
学修者への期待等	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業で使用する資料に従って予習すること。 2. 授業後、当該分野の復習を必ず行い、授業の終わったその日のうちに学修を行うこと。 3. 授業後、当該分野の国家試験問題を解き、学修を進めること。 4. 授業で理解できなかったところは、自分で調べ、解決しなければ質問するなど、絶対そのままにしない。 								
回	授業計画				準備学修			担当	
1	基礎医学総論:細胞・組織学				事前に、国試の達人 運動解剖生理学編と臨床医学編、ヒント式トレーニングの各領域の問題を解いておくこと。(概ね60分程度)			大和田 宏美	
2	解剖学1:骨標本による位置関係							大和田 宏美	
3	解剖学2:筋模型による位置関係							大和田 宏美	
4	運動機能学1:上肢							小松 佳路	
5	運動機能学2:下肢							小松 佳路	
6	運動機能学3:顔面・体幹							小松 佳路	
7	運動機能学4:歩行・姿勢・総まとめ							小松 佳路	
8	解剖生理学1:呼吸器系							荒牧 隼浩	
9	解剖生理学2:循環器系							伊藤 大亮	
10	解剖生理学3:腎臓・泌尿器系							伊藤 大亮	
11	解剖生理学4:消化器系							伊藤 大亮	
12	解剖生理学5:神経系							大和田 宏美	
13	生理学1:筋系							鈴木 裕治	
14	生理学2:神経系							鈴木 裕治	
15	生理学3:内臓系							鈴木 裕治	

回	授業計画	準備学修	担当
16	精神医学1：器質性精神障害	事前に、国試の達人 運動解剖生理学編と臨床医学編、ヒント式トレーニングの各領域の問題を解いておくこと。(概ね60分程度)	須藤 あゆみ
17	精神医学2：統合失調症		須藤 あゆみ
18	精神医学3：気分障害		須藤 あゆみ
19	人間発達学		大橋 孝子
20	病理学1：変性・炎症		鈴木 裕治
21	病理学2：免疫・感染		鈴木 裕治
22	整形外科学1：整形外科一般		小松 佳路
23	整形外科学2：整形外科骨折		小松 佳路
24	整形外科学3：変形性関節症		小松 佳路
25	内科学1：呼吸器疾患		荒牧 隼浩
26	内科学2：循環器系疾患		伊藤 大亮
27	臨床心理学1：心理療法		小関 友記
28	臨床心理学2：防衛機制・発達段階		小関 友記
29	神経内科学1：神経筋疾患：PD、ALS、SCD		大和田 宏美
30	神経内科学2：神経筋疾患：筋ジス・MG・GBS・MS	大和田 宏美	
教科書	「PT・OT基礎固め ヒント式トレーニング 基礎医学編改訂第2版」ヒントレ研究所 編 南江堂 「PT・OT基礎固め ヒント式トレーニング 臨床医学編改訂第2版」ヒントレ研究所 編 南江堂		
参考文献	「国試の達人PTシリーズ2023年 運動解剖生理学編 第27版」アイペック 「国試の達人PTシリーズ2023年 臨床医学編 第23版」アイペック 後日指定する		
備考	AB合同授業 1～15, 19～30 PTA B 合同授業 16～18 PTOT合同授業		

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--